

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3171120号
(U3171120)

(45) 発行日 平成23年10月13日 (2011.10.13)

(24) 登録日 平成23年9月21日 (2011.9.21)

(51) Int.Cl. F 1
A 4 7 L 13/18 (2006.01)
A 4 1 D 19/00 (2006.01)

A 4 7 L 13/18
 A 4 1 D 19/00 D

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 実願2011-4556 (U2011-4556)
 (22) 出願日 平成23年8月3日 (2011.8.3)

(73) 実用新案権者 511189539
 伊藤 潤
 埼玉県川越市大字砂久保 1 3 5 番地 1 3
 (74) 代理人 100110652
 弁理士 塩野谷 英城
 (72) 考案者 伊藤 潤
 埼玉県川越市大字砂久保 1 3 5 番地 1 3

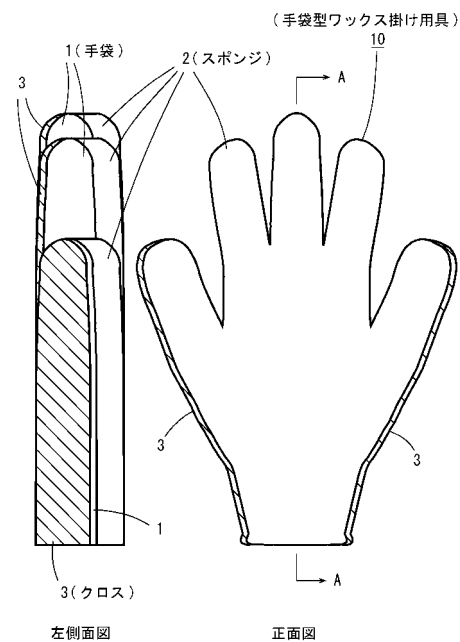
(54) 【考案の名称】 手袋型ワックス掛け用具

(57) 【要約】

【課題】 1つの手形の手袋でワックス掛けと拭き取り両方を片方の利き手で行えるようにし、かつ、ワックス掛けと拭き取りとで生地を着脱して交換する必要もない手袋型ワックス掛け用具を提供する。

【解決手段】 表向きにも裏向きにも嵌められる形状とした5本指の手形の手袋1を備え、当該手袋1の一方の面に当該手袋1の手形と同じ手形のワックス掛け用のスポンジ2を備えると共に、当該手袋1の他方の面に当該手袋1の手形と同じ手形のワックス拭き取り用のクロス3を備え、スポンジ2及びクロス3の5本指が、指ごとに独立して動けるようにした。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

表向きにも裏向きにも嵌められる形状とした 5 本指の手形の手袋を備え、当該手袋の一方の面に当該手袋の手形と同じ手形のワックス掛け用のスポンジを備えると共に、当該手袋の他方の面に当該手袋の手形と同じ手形のワックス拭き取り用のクロスを備え、前記スポンジ及びクロスの 5 本指が指ごとに独立して動けるようにした手袋型ワックス掛け用具。

【請求項 2】

前記クロスは、前記手袋の側面を覆うように設けた、請求項 1 に記載の手袋型ワックス掛け用具。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、手に嵌めてワックス掛けを行うための手袋型ワックス掛け用具に関する。

【背景技術】

【0002】

この種の従来例として、実開平 9-172 号公報（特許文献 1）がある。この公報には、手袋に手形のスポンジを貼り付けたものが開示されている。これによると、手袋を手に嵌めたまま、手形のスポンジでワックス掛けを行うことができる。

【0003】

しかし、この従来例では、ワックスの拭き取りを行うためには、手袋を手から外し、別途ワックス拭き取り用のクロスを用いる必要がある。また、同公報には、手袋の表裏両方にスポンジを装備することも開示されている。しかし、1 つの手袋の表と裏に装備された両方のスポンジを使用するためには、手袋を嵌める手を左から右へ又は右から左へと変えなければならない。よって、1 つの手袋の表裏両方のスポンジを利き手で使うことはできない。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献 1】 実開平 9-172 号公報

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【0005】

本考案は、1 つの手形の手袋でワックス掛けとワックスの拭き取りの両方を片方の利き手で行えるようにし、かつ、ワックス掛け用と拭き取り用とで生地を着脱して交換する必要もない手袋型ワックス掛け用具を提供することを課題とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本考案は、表向きにも裏向きにも嵌められる形状とした 5 本指の手形の手袋を備え、当該手袋の一方の面に当該手袋の手形と同じ手形のワックス掛け用のスポンジを備えると共に、当該手袋の他方の面に当該手袋の手形と同じ手形のワックス拭き取り用のクロスを備える。スポンジ及びクロスの 5 本指は指ごとに独立して動けるようにする。

【0007】

そして、ワックス掛けの際は、スポンジが掌側にくるように手袋を利き手に嵌め、5 本指を自由に使って、スポンジによるワックス掛けを行う。次に、クロスが掌側にくるように手袋を同じ利き手に嵌め、5 本指を自由に使って、クロスによるワックスの拭き取りと、斑になったワックスの均しを行う。

【考案の効果】

【0008】

本考案によれば、1 つの手形の手袋でワックス掛けとワックスの拭き取りとの両方を片

10

20

30

40

50

方の利き手で行うことができ、かつ、ワックス掛けと拭き取りとで生地を着脱して交換する必要もない。

【図面の簡単な説明】

【0009】

【図1】図1は、本考案の実施形態である手袋型ワックス掛け用具の構成図。

【図2】図2は、図1に示すA-A断面の一部省略した断面図。

【考案を実施するための形態】

【0010】

以下、本考案の実施形態を図面を参照しつつ説明する。図1は、本考案の実施形態である手袋型ワックス掛け用具の構成図である。正面図と左側面図により構成を示しているが、図中の斜線はクロス3の生地を示しており、断面を示すものではない。右側面図は、左側面図と左右対称に現れる。また、図2は、図1に示すA-A断面の一部省略した断面図である。手袋1の奥に見えるべき指を入れる穴は図示を省略している。この図2に記入した斜線は、スポンジ2およびクロス3の断面を示している。

10

【0011】

手袋型ワックス掛け用具10は、表向きにも裏向きにも嵌められる形状とした5本指の手形の手袋1を備えている。また、当該手袋1の一方の面には、当該手袋1と同じ手形のワックス掛け用のスポンジ2を備えている。更に、当該手袋1の他方の面には、当該手袋1と同じ手形のワックス拭き取り用のクロス3を備えている。スポンジ2及びクロス3の5本指は、手袋1の5本指と共に、指ごとに独立して動けるようになっている。

20

【0012】

本実施形態において、手袋1、スポンジ2及びクロス3の手形は、中指を中心として左右対称に形成されている。これにより、利き手に嵌める際、表向きにも裏向きにも嵌めることができるようになっている。ただし、左右対称に限らず、表向きにも裏向きにも嵌めることが可能な形状であればよい。

【0013】

本実施形態の試作品では、手袋1の素材として軍手の素材を用いた。しかし、手袋1の素材はこれに限らない。

【0014】

また、本実施形態の試作品では、スポンジ2として、市販のワックス掛け用のスポンジと同じ素材を用い、スポンジの厚みは10mmから15mm程度に設定した。しかし、スポンジの厚みはこれに限らず、ワックス掛けのしやすさと、指の動かしやすさを考慮して設定するとよい。

30

【0015】

また、本実施形態の試作品では、クロス3として、マイクロファイバーを素材とするクロスを用いた。しかし、クロス3の素材はこれに限らず、ワックスの拭き取りに適した素材であればよい。

【0016】

本実施形態の試作品は、手袋1を構成する軍手の素材に、スポンジ2の手形部材と、クロス3の手形部材とを、適切な接着剤で接着することにより構成した。

40

【0017】

そして、ワックス掛けの際は、スポンジ2が掌側にくるように手袋1を利き手に嵌め、5本指を自由に使って、スポンジ2によるワックス掛けを行う。次に、クロス3が掌側にくるように手袋を同じ利き手に嵌め、5本指を自由に使って、クロス3によるワックスの拭き取りと、斑になったワックスの均しを行う。なお、利き手が右手でも左手でも同じようを使用することができる。

【0018】

ここで、クロス3の生地は、図1に斜線で示すように、手袋1の側面まで覆うように設けられている。手袋1の親指側の側面も小指側の側面も同様に、クロス3の生地に覆われている。

50

【0019】

このようにすると、手の側面を使ってワックスを均すことができ、例えば、拳を握った状態で、手の側面でワックスを均すと、比較的小さな労力で、ワックスを均すことができる。

【0020】

クロス3が手袋1の側面を覆う面積と形状は、上記の機能を多少でも達するものであればよい。本実施形態では、指先から手首付近までの側面のほぼ全体を覆っているが、これに限らない。

【0021】

以上説明した本実施形態によれば、1つの手形の手袋で、ワックス掛けとワックスの拭き取りとを片方の利き手で、5本指を自由に使うことができ、かつ、ワックス掛けと拭き取りとで生地を着脱して交換する必要もない。

【0022】

また、クロス3が手袋1の側面まで覆うようにしたので、手の側面を使って効果的にワックスの均しを行うことができる。

【符号の説明】

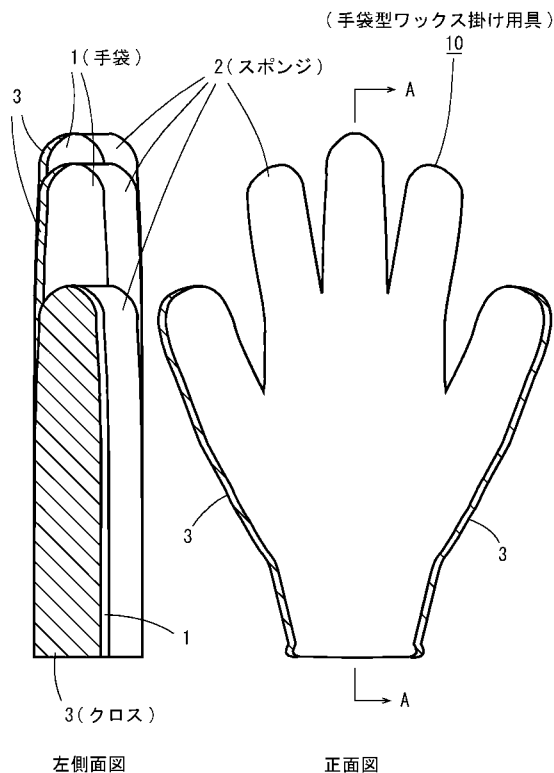
【0023】

- 1 手袋
- 2 スポンジ
- 3 クロス
- 10 手袋型ワックス掛け用具

10

20

【図1】



【図2】

